

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。



2025年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報

2025/5/16 現在

科目 III

（職業倫理・行為基準、数量分析と確率・統計、市場と経済の分析）

第1問（10点）

問1 D 問2 A 問3 C 問4 B 問5 B

第2問（20点）

I

問1 C 問2 B 問3 D 問4 A 問5 C

II

問1 C 問2 D 問3 A 問4 D 問5 B

第3問（15点）

I 問1 C 問2 B 問3 A 問4 D 問5 A

II 問1 B 問2 D 問3 C

第4問（23点）

I 問1 E 問2 C 問3 C 問4 C 問5 B 問6 C 問7 B

II 問1 E 問2 C 問3 D

III 問1 A 問2 E 問3 E

第5問（22点）

I 問1 C 問2 B 問3 D 問4 A 問5 A 問6 B

II 問1 D 問2 C 問3 A 問4 B

III 問1 D 問2 E 問3 B

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合もありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2025年（春）証券アナリスト1次試験

科目III（職業倫理・行為基準、数量分析と確率・統計、市場と経済の分析）

■職業倫理・行為基準

問題	2023年秋	2024年春	2024年秋	2025年春
第1章 証券アナリスト職業行為基準の概要	問1	問1	問1	問1
第2章 職業的専門家に重要な信任義務	問2	問2、問3	問2、問3	問1、問2 問3、問4
第3章 信任義務を果たすための忠実義務	問3	問3	問3	問3、問4
第4章 信任義務を果たすための注意義務	問4、問5	問4、問5	問4、問5	問5

過去4回の試験と同様に、第1問として計5問が出題された。協会通信テキストの第1章「証券アナリスト職業行為基準の概要」から第4章「信任義務を果たすための注意義務」までまんべんなく出題されているが、今回は第2章「職業的専門家に重要な信任義務」に関する出題が多かった。問4Cの引受業務を行う企業の証券の投資推奨といった、協会テキストに記述が見当たらない出題もあったが、常識をもってすれば解答できるだろう。

■数量分析と確率・統計

今回の出題は以下の通りであった。

第2問（20点）			
	テーマ	問題形式	協会通信テキスト
I	問1 金利の期間構造（スポットレート、フォワードレート、ペーレートの関係）	正誤選択	第2章 投資リターンと利回り
	問2 累積分布関数	正誤選択	第4章 確率分布
	問3 推定と検定	正誤選択	第5章 推定と検定
	問4 微分	計算問題	第7章 微分と最適化の基礎
	問5 制約条件付最大化問題（線形計画問題）	計算問題	第7章 微分と最適化の基礎
II	問1 期待値	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問2 分散	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問3 共分散	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問4 周辺分布	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問5 共分散と相関係数	正誤選択	第3章 確率と統計の基礎

〔試験の構成〕

「数量分析と確率・統計」は、従来通り第2問I・IIにまたがった構成で配点20点。Iは個別の独立小問、IIは共通の前提に基づくユニット問題という構成も踏襲されている。I・IIともに小問5問ずつで、全体で10問という形式は、2024年春試験と同様だが、問題数は最少であった。

〔出題分野の傾向と変化〕

これまで毎回出題されていた正規分布に関する問題が、今回は見られなかった点は大きな特徴である。また、制約条件付最適化問題については、従来は微分が利用できる非線形計画問題であったのに対し、今回は微分が利用できない線形計画問題であった点も注目される。さらに、今回は回帰分析の出題がなかった。金利の期間構造やポートフォリオのリターンに着目した問題が見られる中で、科目Iとの出題の重複を回避する意図があった可能性も考えられる。

今回出題された線形計画問題は初出であり、カリキュラム移行から4年目を迎える未出テーマの出題が難しくなっていることもうかがえるものであった。

〔難易度〕

ユニット問題のIIは、確率の基礎に関する出題（確率変数の期待値・分散・共分散・相関係数）で構成され、内容としては平易であった。加えて、回帰分析の出題がなかった点も相まって、全体的には受験者にとって比較的取り組みやすい問題であったといえよう。

■市場と経済の分析

「科目III」のうち、第3問から第5問までの「市場と経済の分析」についてみてみますと、試験制度が改正された2022年の春試験以降、問題の難度が高い傾向が続いている。今回の2025年春試験では、応用問題が多く、難度がさらに高まった印象を受けた受験者も多かったのではないかと思われます。このような難度が高い試験においては、どれだけ基本問題で確実に得点できているかが、合格の扉を開ける鍵となりますので、日頃から基本理論をしっかりと理解する姿勢が求められていると思われます。

大問別に今回の試験内容を概観してみると、第3問（ミクロ経済）では、消費者行動の分析（無差別曲線、限界代替率、予算制約線、消費者余剰など）、完全競争市場（市場価格と取引量、成立条件、長期均衡など）、不完全競争市場（独占価格、価格差別、クールノー均衡など）から出題されています。

第4問（マクロ経済）では、国民経済計算（GDP統計、貯蓄・投資バランス、寄与率など）、産業連関表、IS-LM分析、AD-AS分析、物価指数、オーケン法則とフィリップス曲線、インフレなどから出題されています。

第5問（金融と財政、国際経済）では、貨幣の機能、資金循環統計、フィッシャー方程式、日本の金融政策、日本の財政、財政政策、国際収支統計、リカードの比較優位の原理、ヘクシャー＝オリーン・モデル、関税の効果、実効為替レート、マーシャル＝ラーナー条件などから出題されています。